令和３年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
小学部	【学校目標】 教育課程に基づいた指導と評価の一体化 【下位組織レベル】 教科について，個々の児童の目標を明確にした指導を推進する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	積極的に研修会に参加し，教員の専門性の向上に努め，学校卒業後の生活を見据えて，学校生活をどのように送れば良いのかを考えながら取り組んで欲しい。 各種アンケートは，紙ベースでなく，Google フォーム等を活用して，効率化を図ることも検討してはどうか。	教育課程が変わって２年になり，教員の教科学習に対しての理解が深まっているが，一部の教員のリーダーシップにかかっているところがある。次年度は，各児童についての実態把握や目標設定，評価の方法について，より多くの教員が理解できるような研修やケース会を設定する。
		①-1　教員の 70 %以上が，個別の指導計画の目標において，「教科の目標を明確にできた」と回答する。	①-1　96 %の教員が，個別の指導計画の目標において，「教科の目標を明確にできた」と回答した。	（評定） A		
		①-2　個別の指導計画の２・３学期の教科の目標について「目標に十分達している」「目標に達している」という評価が，80 %以上になる。	①-2　個別の指導計画の２・３学期の教科の目標について「目標に十分達している」「目標に達している」という評価が 97 %であった。	（所見） 児童の各教科の目標について明確にするために，学習グループから対象を決め，実態から教科の目標へつなげていく手順をグループで検討した。その成果を，学部会で発表しあう中で，児童の具体的な教科の目標を学部の教員が共通理解できた。児童の個別の指導計画にも反映できた。 新型コロナウイルス感染症のため，予定していた参観日が中止になったり，参観者が少なかったりした。児童の学習の目標や内容については，個人懇談や，登下校の送迎時，連絡帳を通して，保護者に伝えており，保護者の理解を得られるように努めている。		
		①-3　保護者アンケートから「学習の目標や内容が適切である」という評価を，小学部の保護者の 80 %以上から得られる。	①-3　参観日に出席した保護者の 100 %が，アンケートより「そう思う」「とてもそう思う」という評価であった。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1　各児童において，個別の指導計画の目標設定や評価についての，ケース会を年間５回以上行う。	①-1　各児童において，ケース会を年間５回以上行うことができた。10 回以上実施した学習グループがあった。			
		①-2　児童の教科の目標を明確にするために，対象児童についてグループごとに，実態把握のための検討会を行う。	①-2　学習グループごとに対象児を決め，共通のスケールを用いて，実態把握や目標設定を行った。学部会において発表し合い，共通理解をすることができた。			
		①-3　児童の実態や，教科についての目標を共通理解し，次年度の国語と算数の年間目標について，反映させる。	①-3　96 %の教員が，児童の実態や，教科についての目標を共通理解し，次年度の国語と算数の年間目標について反映させることができた。			
		①-4　参観日に，保護者アンケートを実施する。	①-4　９月と 12 月の授業参観日にアンケートを行い，小学部保護者 23 名中，各々 12 名の保護者から回答を得た。			

【「総合評価」における「評定」の基準】　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

自　己　評　価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	
中学部	【学校目標】 安心・安全な学校づくり 【下位組織レベル】 専門家の助言などを教育活動に活かし，安心・安全な学校生活が送れるように体制の見直しを図る。	評価指標	評価指標の達成度	総　合　評　価	積極的に研修会に参加し，教員の専門性の向上に努め，学校卒業後の生活を見据えて，学校生活をどのように送れば良いのかを考えながら取り組んで欲しい。 各種アンケートは，紙ベースでなく，Google フォーム等を活用して，効率化を図ることも検討してはどうか。	来年度も多岐にわたって医療的ケアが必要な生徒，また訪問教育を受ける生徒，動きのある重複障がいの生徒など様々な生徒が在籍する。そうした中で，それぞれの生徒が安心・安全な学校生活が送れるよう安全面の対処方法等も含め，研修や専門家の助言を受けるとともにそれを反映させる必要がある。そして，教員が危機管理意識を持ち続けることも課題である。 また，アンケートの結果については，参観日に来校した保護者のみの回答であるので，アンケートのとり方等について今後検討の必要がある。
		①-1　年度末に授業に関するアンケートを実施し「専門家の助言を取り入れ，安心・安全に活動できた」という評価を，中学部の教員の 90 %以上から得られる。	①-1　中学部の教員にアンケートを実施した結果，アンケートの回答者の 100 %から「専門家の助言を取り入れ，安心・安全に活動できた」との回答を得た。	（評定） A		
		①-2　保護者アンケートから「安心・安全な学校生活が送れている」という評価を，中学部保護者の 80 %以上から得られる。	①-2　保護者参観日に実施したアンケート結果（3 回実施）から中学部保護者アンケート回答者の 100 %から「安心・安全な学校生活が送れている」との質問に対し，「とてもそう思う」「そう思う」との回答を得た。	（所見） 教員アンケートの結果と保護者アンケートの結果から全体的には概ね達成することができた。 しかし，今年度もコロナウィルス感染予防対策のため，ひのみね総合療育センター入所生は登校できない日数が多く，また登校できた日でも，時間が限られていた。 保護者アンケートも，参観日実施のため参観日に出席できていない保護者からはアンケートの回答が得られておらず，結果に反映されていない。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1　自立活動の学習として，からだの時間における指導，食事に関する指導などを実施するにあたり，専門家の助言を受け指導に反映させる。	①-1　個々に PT，OT の訓練見学や ST からの助言または，社会人講師による来校指導を受けて，専門家の指導・助言を指導に活かすことができた。			
		①-2　指導に入る教員間で支援の方法や留意事項についての共通理解を図るとともに，学部会で生徒の状況報告を行い，学部の教員間で共通理解を図る。	①-2　学部会で毎回学級ごとに生徒の状況報告を行い，教員間で共通理解を図るとともに，グループ会等で学習グループ毎に生徒の共通理解を図ることができた。			
		①-3　個別のケースについて，緊急時の対応マニュアル（医ケア等に関する）を必要に応じて個々に作成，または見直しを行う。	①-3　緊急時のマニュアルについては，個々に作成し，見直しをすることができた。			
		①-4　個別の緊急時の対応マニュアルを作成するにあたっては，担任だけではなく看護師も含めた複数名で作成する。	①-4　マニュアル作成にあたっては担任だけでなく，養護教諭・看護師を含めた複数名で作成し，保護者にも作成したマニュアルについて確認してもらうことができた。			
		①-5　参観日に保護者アンケートを実施する。	①-5　参観日の保護者アンケートは，全校共通のアンケート項目の「学校では，安心・安全な学校生活が送れている」から，中学部保護者の回答を抽出した。			

【「総合評価」における「評定」の基準】　A：十分達成できた　　B：概ね達成できた　　C：達成できなかった

自　己　評　価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	
高等部	【学校目標】 ＧＩＧＡスクールの推進 【下位組織レベル】 ＩＣＴ機器を活用し，少人数によるきめ細やかな指導を通して「個に応じた指導」の充実を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総　合　評　価 （評定） A （所見） 教員アンケート結果の 93 %や，研修会への参加率 96.9 %から評価指標は達成できたと考える。希望研修への参加率は 78 %であったが，情報課の担当が日常的にＯＪＴとして GIGA 端末の操作に関する研修を行ったことにより，既習の内容であったりしたためだと思われる。 夏休み中は，課題の配信も限られていたが，２学期に入り多くの授業で活用する場面が増え，手指に麻痺のある生徒では定期考査をタブレットで受けるなどした。 また３学期に長期入院した生徒がいたが，MetaMoji や Teams 等生徒自身が操作しやすいものを活用するなど個に応じた指導ができた。 在宅就労で必要な力については，予め備わっていて欲しい要素として①所定時間勤務可能な体力②生活面（食事・睡眠・体のケア）自己管理能力③困ったときに他者にＳＯＳ発信できる力と教えていただき，教員にとっても大変参考になった。	積極的に研修会に参加し，教員の専門性の向上に努め，学校卒業後の生活を見据えて，学校生活をどのように送れば良いのかを考えながら取り組んで欲しい。 各種アンケートは，紙ベースでなく，Google フォーム等を活用して，効率化を図ることも検討してはどうか。	新学習指導要領ではＩＣＴを最大限活用し，これまで以上に「個別最適な学び」を推進するように謳われている。教員のＩＣＴ活用支援のために開設された「徳島県 GIGA スクールサポートサイト」だけでなく，他府県の指導事例等を参考にしながら，これまで以上にＩＣＴ機器を活用し，きめ細やかな指導を通して障がいのある生徒達が取り残されることのないように「個に応じた指導」の充実を図っていかなければならないと考えている。 また，本年度は現時点で臨時休校はなかったが，再度休校措置となったとき，オンラインでどのような授業ができるかや，目標設定についても検討しておく必要があり，一人一人に応じた授業方法について改めて考えていきたい。
		①-1　年度末にＩＣＴ機器の活用・指導に関するアンケートを実施し「個に応じた指導の充実が図られた」と回答した教員が 80 %以上になる。	①-1　「ＩＣＴ機器を活用することで個に応じた指導の充実が図られた」の項目で「とてもそう思う」が７名，「そう思う」が６名，「あまり思わない」が１名という結果であり，93 %がＩＣＴ機器の活用・指導によって充実が図られたとの回答であった。			
		①-2　校内や学部内での研修会への参加が，80 %以上になる。	①-2　Teams 研修等 GIGA スクールにに関するものは６回実施され，高等部教職員の参加率は 96.9%であった。その他，「視線入力装置の操作」や「背景加工の仕方」等の希望研修等への参加率も 78 %見られた。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1　長期休業中（臨時を含む）にオンラインでの接続を実施し，学習支援や生徒の状況等を確認する。	①-1　長期休業中に MetaMoji を活用し課題の配信，Zoom による学習支援やクイズ大会を実施した。また，３学期には県外の病院にリハビリ入院している生徒２名に対して Teams のチャット機能を活用し，毎日連絡を取り，可能な限り Zoom 接続を行った。生徒会役員選挙の立会演説会にも Zoom で参加し，演説を行ったり開票の結果をリアルタイムで配信することができた。			
		①-2　情報課と協力し，ＩＣＴを活用した授業の先行事例を紹介するなどし，生徒一人一人に最適な学習アプリや教材・教具を提供する。	①-2「ICT 活用のポートフォリオ」に高等部より 13 の事例を紹介した。			
		①-3　進路指導の一環として，テレワークによる就業体験を実施し，在宅就労で必要な力について理解を深める。	①-3　１年生１名が通信大手の特例子会社によるテレワーク体験実習を行った。４名の在宅メンバーの方達と「Web 会議」を行ったり，在宅勤務の擬似環境で作業を行い，自分自身の適性を判断する演習「文章要約演習」「企画提案演習」等を行ったりした。担当者からは SOS 発信できる力等の必要性についてアドバイスを頂き，教員にとっても大変参考となった。			

【「総合評価」における「評定」の基準】　Ａ：十分達成できた　　Ｂ：概ね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

自　己　評　価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	
総務課	【学校目標】 安心安全な学校づくり 【下位組織レベル】 保護者とともに安全な避難体制の整備を行う	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	実際に災害が起こったときに対応できるよう，日ごろの訓練を大切にしてほしい。 災害時に，停電になったときの対応も想定した訓練も必要。実際に，発電機も動かしてみることが大切。定期的な動作確認もしておく。	昨年度から実施している引き渡し訓練を避難訓練に引き続いて行うことで，発生時の行動により近づけることができるので，今後も継続して行きたい。また避難場所に集合した折には，非常持ち出し袋から各個人に防災カードを配るまでの訓練も取り組んでみたい。 防災カードの医療的ケアの様式は，記入例の見本と共に記入のポイントを示すことで周知を徹底したい。引き続き保護者や教員にアンケートをとり，さらに「記入しやすい」「見やすい」「わかりやすい」カードを目指したい。
		①　参観日に来校した保護者の 80 %以上が避難訓練と引き渡し訓練に参加し，アンケートで「防災訓練に参加して良かった」に 80 %が回答する。	①　参観日に来校した保護者全員が避難訓練に参加し（100%）アンケートでは「防災訓練に参加して良かった」に 100%の回答を得た。	（評定） A		
		②　新しく作成した防災カードの医療的ケアの様式についてアンケートを実施し，改善点を把握し改良する。	②　保護者と教員からは「おおむね良い」の評価を得た。教職員からは，内容の記入欄のフォントについて改善してはとの意見が出た。保健室からは薬の分包が大切との意見があり，２学期末の通学生の防災カバンの中身の確認時に，薬の１回分の分包について保護者に通知した。	（所見） 参観日に避難訓練を実施したことで，保護者に避難の様子を知っていただける良い機会となった。アンケートから得た意見をもとに訓練の実施方法について検討することができた。 今年度防災カードの医療的ケアの様式を新しくしたが，アンケートの結果から記入の仕方が周知できていない部分や，項目の精選等改善点を把握することができた。アンケートで得られた意見をもとに改善しながら安心安全な学校づくりを推進していきたい。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1　参観日に校内の避難訓練と，災害時を想定して通学生の保護者への引き渡し訓練を実施する。	①-1　参観日に風水害の避難訓練を実施し,引き続き保護者への引き渡し訓練を行った。ひのみね RENRAKU メールの受信画面や防災カードの記載内容から引き渡し者の確認を取った。			
		①-2　保護者に訓練についてのアンケートを実施する。	①-2　参観日当日にアンケートを配付し記入していただいた。「実際の訓練の全体が見られて良かった」「保護者も訓練に参加したけど,引き渡しにだけ参加した方が良かった」という意見も得た。			
		②　新防災カードの医療的ケア様式について，教職員と保護者に「記入しやすさ」「見やすさ」「わかりやすさ」についてアンケートを実施する。	②　保護者には「記入しやすさ」についてアンケート用紙を配付し,教職員は「見やすさ」「わかりやすさ」についてアンケートを実施した。			

【「総合評価」における「評定」の基準】　A：十分達成できた　　B：概ね達成できた　　C：達成できなかった

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
教務課	【学校目標】 教育課程に基づいた指導と評価の一体化 【下位組織レベル】 教育課程に基づいた授業に取り組み，児童生徒のニーズや学習段階に応じた指導の推進を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	個別の教育支援計画，個別の指導計画，年間指導計画等の作成を通して，子どもたちの学校卒業後の生活を見据えた実践ができるよう，教員の専門性の向上に努めてほしい。	肢体不自由があり，障がいの重い児童生徒の教科学習について，教育課程に基づいた取り組みの整理や授業の工夫が必要である。そのためには，教員全員が意識を持って取り組むことが大切であると思われる。 次年度は，全校研究へつなぎ，研究課と協力しながら方向性や取り組みについて明らかにし，その課題を明確にできるツールの検討にも取り組みたい。
		① 各教科の目標や学習内容を年間指導計画に記述し，年間を通じてケース会で確認し活用する。	① 年間指導計画に各学級･HR の児童生徒の学習段階に応じた各教科等の目標を記入し確認できるようにした。また，ケース会等を利用して進捗状況を確認した。	（評定） A		
		② 教員アンケートで，年間指導計画を活用し授業実践ができた，児童生徒の学習段階に応じた目標の設定ができたの２項目に，80 %以上の教員ができたと回答する。	② 年間指導計画の活用は，１学期 88%，２学期 92%の教員ができたと回答した。目標の設定については１学期末できたと回答した教員が 71 %だったが，２学期末は 91%ができたと回答した。	（所見） 昨年度教育課程を変更し，重度重複障がいのある児童生徒の教科の指導の充実に向けて取り組んでいるところである。教員の意識を深められるよう定期的にアンケートを実施し研修を行った。 ２年目に入り，検討し工夫して実践をしている各学級や学習グループもあるが，まだまだ難しさを感じている学級･学習グループも多い。 継続して，取り組む必要がある。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 学習指導要領で児童生徒の学習段階を確認して目標を設定し，学習内容を計画する。	①-1 年度初め，年間指導計画作成時に，学習指導要領を活用して学習段階や目標設定することができた。			
		①-2 ケース会の前に，学習評価や授業の進捗状況を確認して授業の見直しができるよう年間指導計画の活用を働きかける。	①-2 ２・３学期の個別の指導計画目標や手立ての検討ケース会で，授業計画の確認をするために年間指導計画の活用を働きかけた。			
		②-1 1,2 学期末に全職員にアンケートを実施する。	②-1 予定通り質問紙やアンケート集計システムを活用しアンケートを実施した。			
		②-2 アンケートから課題を明らかにし，研修に反映させたり教育課程の検討につなげたりする。	②-2 アンケートから，本校の各教科の指導の取り組みや自立活動との関連等について課題をあげ，教育課程検討委員会で検討し，次年度へ向けての方向性を示した。また，教科指導についての研修につなぐことができた。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
研究課	【学校目標】 教職員の専門性の向上とチームとしての学校づくり 【下位組織レベル】 自立活動実践シートに基づき自立活動の指導目標や指導内容を明確にし，実態に即した指導を行う。 ※自立活動実践シートは，自立活動の指導計画のことである。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 （評定） A （所見） 保護者への説明や学習課題の示し方で保護者の評価が高かったことから，自立活動実践シートに基づき，自立活動の指導計画を作成したことは，指導目標や指導内容を明確にしたことにつながったと考える。	引き続き専門性の向上に努めて欲しい。大学では，研修等の動画をライブラリに保存し，いつでも，誰でもが見ることができるようにしており，繰り返しの視聴も可能となり，有効な方法となっている。検討してはどうか。	自立活動の指導計画は個々の実態に応じて設定されるものであり，こうでなければならないと示されているものではない。そのため，教員の力量に委ねられている面が大きい。今年度中に作成することはできたが，今後はその妥当性を高めることが課題である。そのためには，各教員の実態把握力や課題を関連付ける力を高めることが必要であり，発達や自立活動に関する知識を深めながら，互いの専門性を活用した教員の協働的な取組を企画したり，様々な事例を通して学ぶ研修を推進していくことが必要である。 併せて，作成した自立活動実践シートを授業改善に活用できるようにしていくことも課題である。
		①「２・３学期の自立活動の指導目標・内容及びその設定理由を，担任の説明により理解することができた」と 70 %以上の保護者が回答する。	①「理解することができた」と 94 %の保護者が回答した。			
		②２・３学期の自立活動の参観時に「教員は目標（今から何の学習に取り組むか）を，子どもにわかるように伝えることができていた」と 70 %の保護者が回答する。	②参観日に保護者へ２回アンケートを実施した。「子どもにわかるように伝えることができていた」に対しては「とてもそう思う」74 %「そう思う」26 %の回答であった。トータルで 100 %の回答であった。			
		③「全校研究グループ会において，評価から指導を検証し改善することができた」と 70 %の教員が回答する。	③指導を改善する必要があった 24 人の児童生徒のうち「改善することができた」と 88 %の教員が回答した。改善した結果，95 %の児童生徒で成果が見られた。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 新規赴任者研修・希望研修「自立活動」,「自立活動実践シートの作成」で基本的内容を伝達し,「自立活動実践シートのポイント～課題を関連付ける～」では演習形式の研修を実施する。	①-1 ５月に「自立活動」「自立活動実践シートの作成」研修を該当者に対して実施し，６月に「自立活動実践シートのポイント～課題を関連付ける～」を全教員を対象に実施した。			
		①-2 作成した自立活動実践シートを教頭がチェックした後，各グループで再度明確化する。	①-2 教頭が記載した詳しく知りたい点等について，係がグループ担当者に伝え，再考を促した。			
		②２学期から月１回，自立活動の授業中に取り組むべき目標を児童生徒にわかるように伝えられているか，各教員が自己チェックを行う。	②様式に目標の伝え方を数種類示し，チェックする度に自分自身の方法を振り返られるようにした。目標を伝える必要性を掲示板で伝えながら，月初めに指導の振り返りを全教員に呼びかけた。教員により実施の有無に違いが見られた。			
		③-1 全校研究ワーキング会で評価から指導を見直す手続きを整え，周知する。	③-1 指導を見直す手順について３回話し合いを行い，職員会議等で全教員へ伝えた。			
		③-2 ２学期中に各グループで自立活動実践シートに基づいた評価を行い，指導を見直す。	③-2 10月から12月に，月１～２回実施した。毎日の記録を基に，見直しが必要なケースについて話し合った。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
人権進路課	【学校目標】 家庭や地域と連携協働した教育の実践 【下位組織レベル】 保護者や外部関係機関との連携を図り，保護者や教職員の人権・進路についての意識の向上や人権教育・進路指導の充実を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	学校卒業後の生活を見据えた，学校生活の送り方を考えながら取組を進めて欲しい。	人権については，子どもたちには，個々の実態に応じた取組をすすめ，保護者の方々や教員には，社会の変化に対応した様々な人権課題に気づき，意識を高めていけるようにパネル展示，ミニ研修，通信等の形で，より多くの方々に情報が発信できる形を考えていきたい。情報モラルについても引き続き取り上げていく必要があると考える。 生徒指導については，対象生徒数が少ないという状況に応じ，隔年開催等と方法を工夫しながら，薬物乱用防止教室，スマホ携帯安全教室等を開催し，生徒が今後の生活に必要な知識を得られるように取り組みたい。 進路について，保護者には今年度は施設・事業所説明会を実施したので，次年度はコロナ禍の状況に応じてではあるが施設見学を計画し，通信の発行等により情報提供等を行っていきたい。各学部の教員へ進路状況の情報提供を行ったり，キャリア教育支援プログラムの活用等を促していきたい。また総合療育センターを含めた関係機関との連携の機会や方法についても検討が必要である。
		①　研修会後や年度末のアンケートにおいて，保護者・教員の 80 %が「意識が高まった」「参考になった」等と回答する。	①　研修会実施後のアンケートにおいて，ＰＴＡ人権研修の人権パネル展示では参加保護者の 100 %，教職員の 97 %，施設・事業所説明会では参加保護者の 100 %から「意識が高まった」「満足した」という回答を得た。教員研修では人権ミニ研修で 94 %，教員進路研修会では参加教員の 100 %が「意識が高まった」「満足した」という回答だった。	（評定） A （所見） 今年度の人権や進路に関する研修では，コロナ禍の状況に応じて人権コンサートや講演会の予定をパネル展示や資料配付に変更し，情報モラルや様々な人権課題について取り上げ，人権意識を高めることができた。 施設見学は施設・事業所説明会に変更して実施した。３カ所の施設の説明を９名の保護者が聞き，取組がよくわかったという意見をいただいた。実際の見学も行いたいという意見もあったので，今後の参考としたい。 児童生徒を対象とした外部関係機関と連携した取組についても，感染対策をとりながら実施でき，生徒の意識や経験を広げることができた。		
		②　人権や進路に関する外部関係機関と連携した取組を年間に５回以上実施する。	②　児童生徒を対象とした外部関係機関と連携した取組を年間に５回実施できた。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1　人権については小松島市人権推進課，あいぽーと徳島，進路については福祉施設等の関係機関と連携し，保護者や教員を対象とした研修会を実施する。	①-1　保護者や教員を対象として，あいぽーと徳島よりお借りした人権パネル展示や小松島市人権推進課でお話しいただいた内容をもとにした情報提供，また福祉施設の方にお越しいただいた説明会を実施した。			
		①-2　人権や進路について，保護者や教員のニーズやコロナ禍等の状況に応じて実施できる方法を検討し，研修会開催や人権進路通信による情報提供を行う。	①-2　教員のアンケートを踏まえた進路研修会を夏季休業中に実施したり，コロナ禍の状況に対応し，ＰＴＡ研修の内容を変更し，啓発資料を配布した。			
		②-1　人権の花運動，中高生人権交流集会等への参加，キャリア教育出前授業，リモート進路学習等の外部関係機関と連携した取組を実施する。	②-1　外部関係機関と連携し，児童生徒を対象とした人権の花運動，中高生人権交流集会や南部ブロック生徒部会（参加生徒４名），キャリア教育出前授業（参加児童生徒６名），卒業生を講師として招いた進路学習（参加生徒６名）等の取組を実施することができた。			

【「総合評価」における「評定」の基準】　Ａ：十分達成できた　　Ｂ：概ね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
特別活動課	【学校目標】 GIGA スクールの推進 【下位組織レベル】 Zoom などを積極的に利用し感染症予防に努めながら交流及び共同学習を推進する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	ICT 機器の活用も含めて，今後も充実させていってほしい。	従来の直接的な交流及び共同学習と比べると，Zoom では劣るところがあるのは事実である。ただ，間接的な方法としてオンタイムにやり取りできることや，実施方法によっては有効であることが，アンケート結果から読み取ることができる。 今年度の Zoom での実施方法について各学部で記録を残しておき，新型コロナウィルスの感染状況によっては，選択肢の一つとして積極的に進めていきたい。
		① Zoom を用いた交流及び共同学習において，実施後に担当教員へアンケートをとる。具体的に有効だと思われる部分について意見をもらい，各校の児童生徒にとって有効であったと 70 %以上が回答する。	① 小学部児童が居住地校交流を２校と，中学部が上勝中学校，高等部が城ノ内高校と小松島高校と，それぞれ Zoom での交流及び共同学習を実施した。アンケートでは５校より６件の回答があり，「大変有効であった」５件，「やや有効であった」１件であり，100 %であった。	（評定） A （所見） 直接会っての交流が難しい中，Zoom で交流できたことは有効だという感想が多かった。Zoom で相手のことを知ることができたり，楽しくゲームができたことに良かった，という意見が見られた。Zoom での聞こえ方，見え方について今後も工夫が必要であると思われる。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 Zoom の積極的利用を呼びかける。	①-1 Zoom での交流が可能な学部，クラスは進めてもらうよう，課会で周知した。			
		①-2 Zoom を用いた交流学習の実施について交流校へ依頼する。	①-2 各学部，クラス担当で交流校へ実施を依頼した。			
		①-3 交流校と Zoom での学習内容を検討する。	①-3 各学部，クラス担当で学習内容について，電話やメールで打合せを実施した。			
		①-4 実施後にアンケートを実施し，次年度以降や有事の場合に生かす。	①-4 交流実施後に，アンケートへの協力を依頼し，改善点等を課会で共有した。			
	【学校目標】 安心・安全な学校づくり 【下位組織レベル】 学校全体の行事について，安心して児童生徒，保護者が参加できるように，教職員が工夫して取り組む環境を整える。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	ICT 機器の活用も含めて，今後も充実させていってほしい。	昨年度より，体育祭と文化祭は安全を確保するために，規模を縮小して実施している。今後，新型コロナウィルスの感染状況がどのように推移するのか見当は付かないが，感染状況に応じた体育祭，文化祭が実施できるよう準備をしておく必要がある。 前年度末に次年度の行事内容についての方向性を検討しておき，年度始めに職員会議や PTA 総会で周知をしたいと考える。 今後も実施後のアンケートを保護者，教職員へ依頼し，意見を参考にして実施形態や内容に生かしていきたい。
		① 体育祭と文化祭のアンケートで，昨年度の課題をそれぞれ１つ以上改善できる。	① 体育祭では４分割したリモート画面や，手ぶれによる見えにくさ，また，リモート観戦の保護者見学場所が課題であった。今年度は２画面にし，手ぶれしないよう撮影機材を工夫した。リモート観戦は保護者控え室に一堂に集まるのではなく，各教室に分散して観戦することとした。 文化祭では，展示と催しの見学時間が不十分だったこと，体育館中央の撮影機材が課題であった。今年度は展示，催しともに文化祭当日から一週間の見学期間を設けた。撮影機材は体育館の後方へ移動させ，見学の邪魔にならないようにした。体育祭，文化祭ともに実施後のアンケートで，これらの件について意見に上がることなく，課題は解消された。	（評定） A （所見） 今年度は昨年度に近い形態だったことや，年度当初に周知していたこともあって，保護者，教員ともに混乱は少なかったように感じる。Zoom の画質や音質については限界があるかもしれないが，課題点の改善で，より満足できる結果となった。今年度のアンケート結果についても検証をし，次年度に生かしていきたい。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 教職員へ早い段階で方向性を示す。	①-1 昨年度末に方向性を検討し，年度始めの職員会議で全体に周知した。			
		①-2 昨年度の課題点について課会で洗い出し，改善策を検討する。	①-2 課会で検討した改善点を特に情報課の担当者と相談，検討を重ねた。			
		①-3 職員会議において全体協議にかける。	①-3 職員会議で詳細を提案した。			
		①-4 実施後にアンケートを実施し，改善点について意見を聞く。	①-4 体育祭，文化祭とも実施後に保護者と教員へアンケートを実施した。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指と活動計画	評価		学校関係者の意見	
支援課	【学校目標】 家庭や地域と連携協働した教育の推進 【下位組織レベル】 関係機関と連携をとりながら，肢体不自由に関する専門的な支援を行い，肢体不自由教育の理解啓発を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 （評定） A （所見） 県内の肢体不自由教育の理解啓発を図るために，肢体不自由学級の支援を実施した。 巡回相談員による相談件数は昨年度の２倍であった。 肢体不自由学級担任者研修会（総合教育センター主催）や公開研修会等の Zoom による研修は無事に実施できた。 未就学児を対象とするわくわく教室も参加希望が多かった。感染症拡大防止対策を徹底しながら，センター的機能を発揮できたと考える。	専門性を活かした地域支援を充実させるためにも，教員の専門性の向上に努めてほしい。	肢体不自由学級の担任と電話で話すと，様々な困り感があり，相談内容は千差万別であった。支援学校への進学を検討しているという場合も多く，進路に関する様々な情報を提供する必要性を感じた。巡回相談員活動のエリアについては，各支援学校間で情報共有しながら，肢体不自由児の相談には柔軟に対応していきたい。 巡回相談をより充実させるために，記入量の多い相談シートの検討が今後の課題であると考えられる。 小松島市の保育所等への巡回相談の件数が多く，肢体不自由教育に特化した巡回相談は２割であった。発達障がいに関する専門的知識をより有した巡回相談員の育成が望まれる。 パワーアップ事業の公開研修会は，時間いっぱいの質疑応答があり，事後アンケートでも 90 %が「満足・やや満足」と答え有効な研修会となった。肢体不自由教育と発達障がい教育の両方に有効な支援に関する公開研修会を今後も計画したい。
		①　特別支援学級担任者研修会（肢体不自由）参加の学校や，過去に相談があった肢体不自由児が在籍する学校等の児童生徒の様子や学校の困り感について，80 %以上聞き取ることができる。	①　県南部の小学校 10 校と中学校２校に電話し，実際には学級の設置がなかった１校を除く 92 %の担任から児童・生徒の実態と現状を聞き取ることができた。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1　地域の関係諸機関に年度当初のあいさつ回りやチラシの配付をし，肢体不自由児に関する情報を収集する。	①-1　行政や福祉関係については，小松島市・阿南市・那賀町は児童福祉課や教育委員会を訪問し，勝浦町・上勝町は電話連絡をした。感染症対策のため会う機会が減ったが，保健師や家庭調査員等と情報交換をすることができた。			
		①-2　特別支援学級担任者研修会（肢体不自由）参加の学校や，過去に相談があった肢体不自由児が在籍する保育所・幼稚園・学校のコーディネーター等に連絡を取る。	①-2　夏季休業以降，近隣の肢体不自由学級設置校へ電話連絡をし，管理職や担任と児童生徒の困り感等について聞き取りを行った。			
		①-3　児童生徒の様子や学校の困り感等について聞き取り，電話相談，来校相談，巡回相談などの教育相談事業を行う。	①-3　小学生の時から定期的に巡回している中学生や，新しく依頼のあった県西部・南部の幼稚園等に定期的に巡回相談を実施した。			
		①-4　わくわく教室やパワーアップ事業の公開研修会を計画・実施し，地域のセンター的機能の充実を図る。	①-4　感染対策を徹底し，２年ぶりに実施することができたわくわく教室には，６名の参加者があった。パワーアップ事業の公開研修会（ビジョントレーニングについて）の Zoom による研修には，13 ヵ所の保育所・こども園・小学校・中学校・支援学校より 77 名（校内教員 30 名含む）の参加者があった。			

【「総合評価」における「評定」の基準】　A：十分達成できた　　B：概ね達成できた　　C：達成できなかった

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
保健環境課	【学校目標】 安心・安全な学校づくり 【下位組織レベル】 健康の維持･促進や体調管理につとめ，安心･安全な環境作りを行う。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	緊急対応マニュアルは，全員に作成するべきではないか。保護者だけでなく，誰でもが対応できるように準備をしておく必要があると考える。学校教育の果たすべき役割についても再考してほしい。	引き続き，感染症予防に努め，安心・安全な環境整備に努める。 また，感染した場合を想定し，ハード面ソフト面の準備を整えていくことが求められる。 緊急対応訓練時，実地的な内容を取り入れる等，危機管理意識の向上を図る。
		① 感染症予防や緊急時の対応について発信し，児童生徒が安心･安全に過ごせる環境を整えるため，下記項目を 80%以上達成する。	① 年度当初の計画の実行に努め，下記項目をそれぞれに 100 %達成できた。	(評定) A		
		1 毎月，感染症対策や予防について呼びかける。	1 毎月，掲示板で感染対策や予防について呼びかけた。	(所見) 感染症予防を徹底し，校内での感染を防ぐことができている。 緊急対応訓練で，教員のバイスタンダーとしての役割の意識が向上し，理解が進んだ。 中学部の緊急対応マニュアル未作成生徒については，登校時に保護者が付き添って医ケアを行うため必要性が発生しなかった。 児童生徒の安全を考慮し，経口摂取や食形態の変更等，緊急時の対応も考え，学校保健委員会を実施して慎重に進めることができた。		
		2 毎月，健康観察表を配付する。	2 毎月末，次月の健康観察表を配付した。			
		3 緊急対応訓練を年２回実施する。	3 ６月と９月の年２回，訓練を実施した。			
		4 医ケアが３つ以上ある通学生の個別の緊急対応マニュアル作成率を 70%以上にする。	4 小学部，高等部ではすべての対象生について，中学部では 1 名を除く生徒について作成できた。			
		5 GIGA スクール構想に関するハンドブックを１学期中に作成する。	5 GIGA スクール構想に関するハンドブックを１学期に作成した。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 掲示板で，感染症対策や健康に関する情報を発信する。	①-1 感染症や熱中症，インフルエンザに関して毎月掲示板で情報提供をした。			
		①-2 毎月配付して，児童生徒および教員の体調管理を促進する。	①-2 計画通り，毎月，児童生徒，教員に配布し，体調管理を呼びかけた。			
		①-3 課内で計画し，学部会に提案して担当者と協議し，訓練を実施する。	①-3 ６月と９月の年２回，訓練を計画通り実施した。			
		①-4 医ケアが３つ以上(修学旅行時保護同伴条件)ある通学生に作成を呼びかける。	①-4 医ケア３つ以上の通学生を確認し，学部長や担任を通じて作成を呼びかけた。			
		①-5 情報課をはじめ関係教員と相談して作成し，各学級での活用を促す。	①-5 １学期に作成して各教室に配布し，活用を呼びかけ，計画通り実施した。			
	【学校目標】 家庭や地域と連携協働した教育の推進 【下位組織レベル】 新学校版環境 ISO の目標達成に向け，地域と連携した教育を推進する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	ICT を活用した情報発信等も積極的に行っていくと良い。	地域コミュニティを活用し，地球環境に優しい社会作りを引き続き行う。取り組み内容が児童生徒，及び地域住民に分かりやすく伝わるよう工夫する。 時代に応じたハイブリッドな取り組みも視野に入れ，活動の幅を広げていく。
		① 地域(家庭を含む)や外部人材と連携し，環境保全に対する意識の向上を目指し，下記項目を 80%以上達成する。	① 年度当初の計画の実行に努め，下記項目をそれぞれに 100 %達成できた。	(評定) A		
		1 地域での「ゴミ０運動」を年３回以上実施する。	1 各学部合わせて年間 10 回，保護者は 12 月の参観日に１回，計 11 回実施した。	(所見) エシカルの日の設定やエシカルの歌を作成し，校内放送を始める等，意識しやすい環境を整えた。 チラシを見て，ペットボトルキャップを持ってきてくれる地域の方が増え，着実に地域での活動の広がりが見られる。 地域人材を活用し，家庭とも連携しながら環境教育に取り組むことができた。		
		2 地域の中で，エシカル啓発活動を年３回実施する。	2 地域に出向き，エシカル啓発活動を年３回実施した。			
		3 藍染め体験を年２回実施し，藍染め作品を展示する。	3 社会人講師を招聘し１学期に２回藍染め体験を実施。作品展示も２回行った。			
		4 植栽交流の中で，校章花壇の植え替えを年２回行う。	4 年２回，校章花壇の植え替えを行った。			
		5 広報や活動の様子を年５回以上発信する。	5 年 14 回，活動内容をホームページで発信した。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 年度当初に各学部会で説明し，ゴミ０運動を推進する。必要な道具の準備を行う。保護者参加日を設定する。	①-1 計画通り実施でき，ゴミ０運動を推進できた。			
		①-2 地域と綿密に連絡調整し，児童生徒に参加を呼びかけ，サポートする。	①-2 地域でのチラシ配布等，計画通り児童生徒によるエシカル発信ができた。			
		①-3 年度当初に計画を立て，社会人講師や関係教員との連絡調整をする。	①-3 計画通り実施し，藍染め体験をすることができた。校内展示とともに地域の協力を得て地域でも作品展示を行った。			
		①-4 勝浦校の担当教員と相談し，校内に呼びかけて中庭の環境を整備する。	①-4 6･11 月に勝浦校の協力のもと花壇を植え替え環境の美化･整備ができた。			
		①-5 チラシ作成や活動記録を行い，本校ホームページで案内する。	①-5 SDGs のロゴ作成や活動写真，地域連携の様子をホームページで案内した。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
情報課	【学校目標】 GIGA スクールの推進 【下位組織レベル】 GIGA スクールにおける学習者用端末の学習環境を構築する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	今行っている ICT 機器活用の取組は，コロナ収束後も発展していくと思う。情報化社会が進んでいくの中で，障がいのある子ども達にとっても，よりよい環境ができると思って機器の活用を充実させていってほしい。	今年度は GIGA スクール構想に基づき，各校務分掌において，それぞれの担当分野を担って進めてきた。次年度も，各課・部と協働して本校にマッチした取組を進めたい。 ICT 機器を使った授業・学習は，当たり前の状況となってきている。使用頻度が上がり使用場面が広がると，それに伴って様々なニーズが生まれてくると思われる。共通のニーズについては一斉の研修会等で周知伝達を図り，個々のニーズについては希望研修やその場面ごとに対応していきたい。 また，校内の活用事例を共有することで，さらに GIGA スクール構想の広がりを図りたい。
		①-1　80 %以上の学級で学習者用端末を用いた学習活動を年間２回以上実施する。	①-1　すべての学級が iPad を用いた学習活動を年間２回以上実施している。	（評定） A		
		①-2　病棟生が，本人の学習用端末を使って学習活動ができるように，一人につき１つ以上，学習アプリや教材を入れる。	①-2　病棟生の端末に，必要なアプリを入れて訪問授業の際に使用することができた。	（所見） 平素の授業活動の中で，端末を用いた学習がよく行われている。病棟生の一人一台端末の使用の機会は少なかったが，訪問学習時に教員と一緒に利用できた。学校所有の端末を用いたリモート学習は，昨年度に引き続き継続して実施できている。 本校教員の端末を用いた学習活動の展開は，個々のニーズに応じて深化・拡充している。Edtech を実施した昨年度と比較しても進歩している。 それらの取り組みについては学校全体でポートフォリオに記録し，校内で 40 事例が集まった。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1　端末貸与及び利用の規程や書類様式を策定し，学習端末の利用手続きやルール等の運営体制を構築する。	①-1　端末貸与及び利用規程等の諸様式の策定，手続き，ルール等の運営体制を構築することができた。			
		①-2　各端末のデータベース及びクラウドのアカウント等の管理・保全体制を整える。	①-2　各端末のデータベース及びアカウント等の管理・保全体制を整えることができた。			
		①-3　80 %以上の学級が Zoom で１回以上ホストとなることができ，オンラインでの学習活動が展開できるよう手引き書の作成や研修を行う。	①-3　すべての学級がホストとなりリモート授業を展開できるようになった。ホスト及び画面共有等の手引き書を作成し，研修を実施した。			
		①-4　本校教員や GIGA サポータと連携して，学習端末及び ICT 機器の活用方法について，放課後や夏季休業中に校内研修会を開催する。	①-4　学習端末及び ICT 機器等の活用方法について，校内で研修会を開催することができた。			
		①-5　ICT 機器の活用方法や教材の作成について，各教員からの相談に応じ，協働で教材作りを行う。	①-5　アクセシビリティ機能，教材作成の方法やノウハウ等について，各教員からの相談に応じ，教材作成支援について協働で行うことができた。			

【「総合評価」における「評定」の基準】　A：十分達成できた　　B：概ね達成できた　　C：達成できなかった